

令和6年度 学校評価表

三次市立塩町中学校

学校教育目標:挑戦と貢献 ～主体的に学び、他者と協働して課題を解決していく生徒の育成～

A 100～80% B 79～60% C 59～40% D 39～0%

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	成果指標	目標値	中間達成値	最終達成値	分 析	今後の改善策
確かな学力の育成	主体的な学びの創造による学力の向上	基礎・基本の学力の確実な定着	・生徒の振り返りを基にした授業改善による学びの質的向上 ・教科等横断的な単元開発による授業改善の充実	国・市の学力調査の平均正答率	国、市の平均値以上	A	A	・各教科の授業で時間ごとや単元ごとの振り返りを行い、授業改善に生かす取組を継続している。また、みよし結芽人育成研修会では、各教科で授業研修会を行い、その成果を持ち帰り授業改善を図った。11月にRSTの視点を生かした校内授業研修(理科)を行い、教科の特性に応じた読解スキルの育成方法について考えた。 ・SDGsの視点を取り入れた単元開発を行い、新たなカリキュラムマネジメントに取り組んだ。特に3年生の調査・研究では、既習の学習内容や日常生活から研究テーマを着想し、自ら研究したことを相手意識をもちながら発表することができた。また、生徒にどのような力がいたかを生徒自身が振り返る「塩中タイム」を、学校行事や学期ごとに実施し、生徒自身が自己理解を深める取組を行った。 ・1月に実施した1・2学年の三次市学力到達度検査では、2年生英語が全国平均比－1.0ポイントと若干下回ったものの、それ以外はすべて、全国、市平均を上回った。	・生徒の振り返りをもとに、指導者が自身の授業を振り返り、特に読解力の向上を図ることを重点に置いた授業改善を、全ての教科で行っていく。 ・SDGsの視点を取り入れた単元開発は主に3年生の調査・研究で行い、教科等横断的な学習によりつながるようになったが、テーマの広さ故に、主にインターネットで調べた内容が中心で、自らの実生活との関わりが薄くなってしまった発表も見られた。今後は「地域で取り組まれていること」という視点を取り入れることで、地域でどのようなSDGsの取り組みが行われているかを知り、自分たちに何ができるか、どうしていくのが良いのかを考えさせたい。1年生の防災、2年生の職場体験でも地域との連携を進め、学んだこと、体験したことと実生活が結びつく、生きた学びとなる単元開発、授業作りを進めていく。
		学習意欲の向上	・授業と家庭学習との効果的な連動 ・学習の深化につながる質の高い議論に重点を置いた表現力の向上	教科の学習・授業が「よくわかる」という意識を持つ生徒の割合	全学年・全教科80%以上	B	B	・RST(リーディングスキルテスト)の考え方を各教科で意識した指導をし、定期試験で読解力を問う問題を出題することで読解スキルを向上させる取組を行った。 ・12月に行った生徒アンケートで「授業がよくわかる」と回答した生徒は、全学年全教科平均で85.0%であった。80%を下回っていたのは、2・3年数学、3年英語、2・3年音楽、全学年美術、2・3年技術であった。数学や英語では、学習難易度が上がると内容理解が難しい生徒が一定数いると考えられる。基本的な事項をしっかり押さえ、個々の課題を把握しながら指導を進めていく必要がある。	・昨年度より、デジタルドリルで、各生徒の実態に合った教材を提供し、使いやすい状況になっている。また、読解スキルに関連する問題も、いくつかの教科で用意されている。今年度は特に下半期で、家庭学習等に活用したが、授業中の活用等についても検討していくことで、さらに教育効果を上げていきたい。その他のICTを活用した実践についても共有し、効果を高める。 ・学習の深化につながるような質の高い議論を行うための基礎的な学力を、各教科で充実させていく必要がある。その上で、「問い」を効果的に活用し、生徒同士で学習を深化させたり、生徒自身が深まりを実感したりすることができるような指導の工夫について、研修を継続する。
豊かな心の育成	生徒の規範意識の醸成と望ましい集団づくりの推進	生徒指導上の諸課題の解決	・個別最適な対応を見据えた積極的生徒指導の推進 ・生徒が安心して過ごすことのできる環境整備 ・関係機関との積極的な連携	年間30日以上 の欠席がある生徒数	1年:前年度比減 2、3年:新たな長期欠席者0	B	B	・1年生・2年生においては目標値を達成できたが、3年生においては新たな長期欠席者が1名いる。	・担任を中心としたチーム体制で家庭・外部機関とも連携し、発達支持的生徒指導をおこなう。 ・長期欠席者に対しては、全学期よりも登校日数や学習活動等において改善がみられるよう支援する。 ・新たな長期欠席者が出ないよう、教育相談等を綿密におこなったり、安心・安全な風土の醸成に努める。
		生徒の自治活動の充実	・生徒会の提案による課題解決の取組 ・学校行事、地域行事への生徒の積極的参画の支援	自己肯定感・自己有用感に肯定的意識をもつ生徒の割合	全学年80%以上	B	C	・自己肯定感・自己有用感に肯定的意識をもつ生徒の割合(「良いところがある」「たいていのことはできる」)は、1、2年生においては自己肯定感が80%を下回っており、3年生においては自己有用感の割合が80%を下回った。	・生徒の満足度が高い割合を目指して指導にあたる。 ・生徒の取組に対する肯定的評価、声掛けを増やす。 ・生徒がお互いの良いところを認め合うような活動を授業や生徒会行事等で取り入れる。
健やかな体の育成	生活習慣の改善と体力の向上	基本的な生活習慣の確立	・生活調査の結果を基にした保護者への啓発 ・小中一貫保健主事部会と連動した授業の実施	SNS、ゲーム等時間3時間未満及び家庭学習の時間が60分以上の生徒の割合	前年度比増加	C	C	・生徒保健委員会で生活リズムと家庭での過ごし方について取り上げ、文化祭で掲示した。掲示した内容を生徒がまとめ、保健通信として全校生徒に配布した。 ・生徒アンケートでは、平日のメディア、ゲーム時間3時間未満の生徒が54.6%で(今年度1学期59.7%)で、1学期よりさらに減少した。(昨年度66.0%) ・生徒アンケートでは平日の家庭学習時間が60分以上の生徒の割合は44.3%(内1時間以上2時間未満の生徒の割合は26.7%)で、1学期より2.2%増えた。(昨年度45.8%)	・各学年、各学級における日々の指導や声掛けを継続して行い、中学生としての生活を示していく。 ・生徒保健委員会で、生活習慣の改善について啓発していく。 ・懇談やたより等を通して家庭への啓発を行う。保護者との連携を行いながら個別の指導を行っていく。
		基礎体力の向上	・体育の授業での体づくり運動 ・体力テスト等の結果分析と課題の焦点・重点化	体力・運動能力調査の結果	昨年度全国平均を下回っていた種目のうち、昨年度の結果を上回る種目70%以上	A	A	・昨年度全国平均を下回っていた種目のうち、昨年度の結果を上回る種目は60.6%であった。 ・同一集団においては、全国平均を下回った種目数を分析した結果、現2年生においては、男子では昨年度と同数の7種目が全国平均以下であった。女子においては6種目から4種目へと減少した。現3年生においては、男子では5種目から6種目へと増加し、女子では6種目から4種目へと減少した。 ・種目数で比較すると男子は全国平均を下回る種目が前年度より増えたが、男女ともにほとんどの種目は前年度より平均値が高くなっていることから、個人に着目すると体力テストの記録は向上しているといえる。	・今年度、全学年において全国平均を下回った種目を優先的に記録向上を目指す。 ・男子は、握力(筋力)、反復横跳び(敏捷性)、50m走(スピード)の記録が向上するような運動や取り組みを授業内で取り入れる。女子は、20mシャトルラン(全身持久力)の記録が向上するような運動や取り組みを授業内で取り入れる。 ・生徒が運動やスポーツに対する愛好的態度を育成できるよう、授業改善に努める。
信頼される学校づくり	成果の発信、服務管理による学校信頼度の向上	教育成果の発信	・各種通信やHPによる定期的な発信 ・授業、行事による学校公開の実施	「子供を学校に通わせてよかった」と思う保護者の割合	全体90%以上	A	A	保護者対象の学校生活アンケートでは、「本校に、子どもを通わせて良かった」と肯定的に回答した割合が97.8%で、第1回のアンケート結果から3.1ポイント上昇した。積極的な情報発信についての肯定的回答割合は90.3%。文化祭に生徒が意欲的に取り組んでいたと肯定的に回答した割合が95.8%あり、教育成果の発信全体について、高い肯定的回答を得ることができた。	保護者対象の学校生活アンケートにおいて「本校に、子どもを通わせてよかった」の肯定的回答が高い状況を維持できている。前回、肯定的回答が低かった「将来の夢や当面の目標」「毎日の家庭学習」については、ともに第1回目から向上した。引き続き取組を進めている。
		業務効率化の推進	・各分掌による提案による校務運営 ・在校時間縮減のための業務の効率化	不祥事、職員のメンタル不調の発生数	年間で0件	A	A	・不祥事、職員のメンタル不調の発生数は0であった。	不祥事、メンタル不調につながる超勤時間について、昨年度より月の平均超勤時間は減っている(平均1人当たり1時間18分減)が、月の最大超勤時間は増えている(平均1時間26分増)。教員の仕事の平準化を図り、仕事の偏りを減らしていく必要がある。なお、一昨年度より大幅に超勤時間は減っており、全体的な業務改善は進んでいる状況である。(月平均1人当たり3時間10分減)